

令和 2年度 行政評価事業別シート

	実計対象 <input checked="" type="checkbox"/>	評価対象 <input checked="" type="checkbox"/>	新規 <input type="checkbox"/>	完了事業 <input type="checkbox"/>	ゼロ予算事業 <input type="checkbox"/>	担当者	西條 圭
	全体計画			経費区分	実施計画事業費	内線	3415
事務事業名	4160 鳥獣被害防止対策事業						
所 属	150100 産業振興部・農林課						
施 策	05012100 農業の活性化						
会計	01 一般会計						
科目	060103 農林水産業費・農業費・農業振興費						
事業	020000 鳥獣被害防止対策事業						
事業目的				事業概要・効果			
地域、集落の現状と出没鳥獣の全体を把握し、最も有効な手立て（電気柵、わな、檻、緩衝帯整備など）を検討し、鳥獣被害を最小限に留め、農業者の営農意欲の持続に勤める。				<ul style="list-style-type: none"> ・サル・イノシシ用の電気柵・防護柵購入 ・緩衝帯整備に関する事業 ・有害鳥獣駆除業務 			

PLAN-DO
年度実績及び予定

平成27年度 実績	平成28年度 実績
電気柵2.6km 緩衝帯整備3.9ha	電気柵2.1km 緩衝帯整備1.4ha
平成29年度 実績	平成30年度 実績
電気柵 0.28km 緩衝帯整備 0.18ha	電気柵 0.56km 緩衝帯整備 0.4ha
平成31年度 実績	令和 2年度 予定
電気柵 0.84km 緩衝帯整備 0.48ha	電気柵 1.3km 緩衝帯整備 1.3ha

指標名	無し					
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						
指標名						
算式						単位
年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度	平成31年度	令和 2年度	
目標値	目標					
	実績					
指標選定の理由						
最終年度目標の根拠						

事業費

(単位：千円)

		平成31年度 決 算	令和 2年度 予 算
事業費		19,111	20,684
特定 財源	国庫支出金	0	0
	都道府県支出金	817	3,846
	地方債	0	0
	その他	380	380
一般財源		17,914	16,458
人員数 (人)	正規職員	1.0	0.7
	嘱託職員	0.1	0.9
	臨時職員	1.0	0.0
人員 コスト	正規職員	7,265.0	5,085.5
	嘱託職員	282.9	2,546.1
	臨時職員	1,298.0	0.0
	計	8,845.9	7,631.6
市民一人当たりの経費		0.5	0.5
総額		27,956.9	28,315.6

(単位：千円)

平成31年度決算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
8節 報償費	3,857	有害鳥獣駆除報奨金3,857
11節 需用費	459	野ねずみ駆除実施薬剤431 ほか
13節 委託費	1,469	猟友会有害鳥獣駆除委託1,469
15節 工事請負費	2,194	電気柵設置工事2,194
19節 負担金補助及び交付金	2,366	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金2,330 狩猟免許取得奨励補助金・猟友会補助金35
その他	8,766	電気柵材料費7,013 ほか

(単位：千円)

令和 2年度当初予算 事業費の内訳		
主な節	金額	内容
7節 報償費	3,000	有害鳥獣駆除報奨金3,000ほか
10節 需用費	462	野ねずみ駆除実施薬剤432 ほか
12節 委託費	1,600	猟友会有害鳥獣駆除委託1,600
14節 工事請負費	3,218	電気柵設置工事1,700 電気柵監視システム設置工事1,518
18節 負担金補助及び交付金	2,649	須坂市有害鳥獣駆除対策協議会負担金2,500 狩猟免許取得奨励補助金99、猟友会補助金50
その他	9,755	電気柵材料費7,500

CHECK

個別評価		
項目	評価観点	評価内容
必要性	<ul style="list-style-type: none"> 市民の生命・財産を守るため市が実施することが必要不可欠な事業であるか 行政内部の管理運営上必要な事業であるか 市が主体となり実施すべき事業か 法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか 目的は結果（施策の目指す理想）に結びついているか 	必要不可欠
評価コメント	有害鳥獣対策は、農業振興において必要不可欠である。また市街地への鳥獣出没に関しては、市民の安全にもかかわる事態であり、電気柵や捕獲などの防除する仕組みについては、今後効果を増進できる取組が必要と考える。 空き家問題や耕作放棄地などにも影響受ける分野であり、大局的な解決が求められる。	
有効性	<ul style="list-style-type: none"> 事業の成果は上がっているか 目標に対する達成度は十分か 市民生活上の課題解決に貢献しているか 行政内部の管理上の課題解決に貢献しているか 事業の目的が達成できるような事業内容になっているか 	有効
評価コメント	電気柵による防除効果は認められるが、河川や電気柵設置困難箇所からの鳥獣侵入が、近年増加傾向である。また、電気柵による防除効果は、維持管理状況により左右され、質の高い維持管理を各地区が実施できるようにバックアップする必要がある。 捕獲檻の貸出を普及させることで、市民主体の有害鳥獣対策を実現していく。	
効率性	<ul style="list-style-type: none"> 成果を落とさずにコストを削減する方法はあるか 効率性向上に努めているか 使用料などの受益者負担や補助対象事業の範囲など、財源確保の余地はないか 	やや向上
評価コメント	電気柵の更新や機能強化を図ることで、修繕頻度を減少させ負担軽減を図った。 電気柵監視システムを導入し、維持管理負担の低減を実現し、一元管理できる仕組み作りを行った。	

振り返り（決算年度の取組み課題）

過疎化や高齢化から生じる課題は、有害鳥獣対策にも共通しており、情報技術等の活用で解決する手段を考えていく必要がある。

ACTION

1次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
総合評価コメント	
近年、有害鳥獣対策は、農地のみならず、住宅地までもその危険に晒されている現状から、重要な事業であり要望も強い。	

2次評価

次年度以降の方向性	総合計画に沿って継続
2次評価コメント	
未設置地区への電気柵敷設も進められており、猟友会の協力をいただく中で、より効果的な対策が進められている。	

外部評価

次年度以降の方向性	
外部評価コメント	